

こいふ、有効適切な運動に就きましては、少くとも私は、母親の一人として、日本全国に之が擴充され、深められ、

組織化されて、日本獨得のものにして、成長させ徹底させて戴き度いものご、深く願つてゐる次第でございます。

「おはなし」は自分の手で

この見出しの言葉は、石森延男氏の近著「幼児の母欄内紹介」の中にある言葉です。著者は斯う書いてゐられます。

「今まで、おはなしこいへば、私もは、すぐ何かほかのところにその種がないかさがしまはつてゐました。そこかをさがしてゐれば、おはなしを書いた本か、なにかあるだらうと目を外に向けてゐたのであります。これではいけない。こんごは一つ自分のもの、自分の力で、おはなしを生み出さねばだめだ。……それはかうです。あなた自身の身のまはりのことからおはなしの種をさがすこいふことです。子どもたちの目につくものを、すぐおはなしの種にしてしまふのです。」

此の同じ趣旨で、保育實習科の若い人達が試みた試作の中から數篇を拾つて見ました。おはなしの一つの新しい分野を開き進めてゆきたい心持ちから。(編輯子)

鍵穴のお話

若宮梅子

或る日のこと、皆さんが「サヨナラ〜」と言つて、元氣よく幼稚園からお家に歸つて行つてしまつてからのこと。誰も居なくなつてしまふと、靜かだつた皆さんのお部屋が急にぎやかに

なつて來ました。

何がはじまつたのでせうか。

お部屋の中では丁度會がはじまつたのです。集まつたのは皆お部屋の中のものばかりです。先づ大きな黒板さんが、真中にやつて來ました。續いてお窓さん、戸さん、机さん、椅子さん、花瓶さん、お花さん、電燈さん等皆が集つて來ます。それでお部屋の中は、皆さんがこのお部屋にいらつしやる時より、もつと〜にぎやかになつてしまひました。皆お友達同志といろ〜なお話を